

大谷大学文藝コンテスト

感じたら、書きどき。

六月の中旬、片田舎に住むいたって普通の高校生である僕は新聞の片隅にこんな記事を見つけた。高校生自宅で死、舌を嚙んだか
19日未明、男子高校生Y君(17)が鉄炮町にある自宅で亡くなっているのが発見された。死体は舌が三分の一ほど欠損しており、死因は窒息だと思われる。

寝室の窓から、曇り気味の夜空を見上げる。この分なら月はずぐに隠れてしまうだろう。私は読みかけていた本を机に伏せて、机の引き出しの中から線香を一本手にとった。

2026年7月6日(月)～9月4日(金)

自分らしく生きる
私はこの言葉が苦手です

対象 高校生・中学生
※中学生はにんげん部門のみ



小学三年生の夏のある夜、その日の晩御飯はやけに豪華だった。私は父に問いかけた。「なんで今日のご飯こんなに豪華なん?」「すると父は、「なんでやと思う?」と聞き返した。兄と私で、結婚記念日や誰かの誕生日など私達は正解を見つけた。兄と私したが当てることはできなかった。そしてついに父が発言した。「ママのお腹に、赤ちゃんがいます。」「私はその言葉を聞いて最初に発した言葉を忘れもしない。「いややー!」

一階の六畳間

「沙瑛、大好き」 その声はいつもよりずっと強く、心に響き渡った。かすかに波の音も感じた。私は海に誘われたような気がして、胸元のネックレスを握り、荷出しの途中で家を抜け出した。さざなみが心を覆うような優しい音を立てて、引いていく。あの声はもう聞こえない。

- ①小説部門 (8,000字以内)
- ②にんげん部門 (800字以内/エッセイ作品)

募集作品

※両部門ともテーマ自由
※本コンテスト所定原稿用紙の利用必須
※学校教員からの複数応募に限り、郵送で受付可能
(個人応募の場合はWebサイトの専用フォームより応募)

※本コンテストにおける過去の受賞作品の一部を掲載しています。